カルメル
霊性センターニュース

宇治カルメル会修道院

黙想の家

2017年7月　　333号

目次

事務局移転のお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・1

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・２５

東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

名古屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８

北陸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９

京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３

年間購読（郵送）のご案内・・・・・・・・・・・・・４４

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５

霊性センターニュース事務局
移転のお知らせ

愛読者の皆様

先月号でお知らせいたしましたように、『カルメル霊性センターニュース』の事務局は、今月より、上野毛修道院から宇治修道院に移転することとなりました。

すでに 2017 年度の年間購読を申し込まれておられる方もいらっしゃいますが、これから『霊性センターニュース』の購読を希望される方は、新事務局の方へお申し込みください。

なお、冊子の郵送は、基本的に申し込み翌月から 12 月までとなります。

例えば、7 月申し込みの場合は、9 月号~12 月号《8 月は休刊》となり、この場合の献金は、ご希望の 4 ヶ月×250 円程度となります。これからご購読を希望される方は、以下の所へ郵便か e-mail でお申し込みください。

《郵便でのお申込み》

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院　「霊性センター事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

《e-mail でのお申込み》

メールアドレスは、混乱を避けるため、従来と変わりません。

tokyo@carmel-monastery.jp

なお、献金振込先は、今年度一杯は、混乱を避けるため、従来の振替口座を使用いたします。

郵便番号口座：　００１１０－４－２９７２５０
加入者名：　カルメル霊性センターニュース

『カルメル霊性センターニュース』編集長
九里　彰神父

宇治カルメル会聖ヨセフ像

心の泉

第三巻

第六章　愛する者への試練

１　主

≪子よ、あなたはまだ深く、聡明に、私を愛してはいない。≫

２　子

≪主よ、なぜですか？≫

３　主

≪なぜなら、あなたは、わずかな不幸のために着手したことを放り投げ、あまりに安楽を求めすぎるからである。深く愛する者は誘惑の時にも力強く立ち、敵である悪魔の策略をたやすく信じようとしない。幸運な時に私を愛するのと同様に、逆境の時にも喜んで私を迎える。聡明な愛は、愛する相手の贈り物よりも、それを贈る者の愛のほうに目をそそぐ。贈り物の価値よりも、むしろ愛に注目し、愛する者の次に贈り物を置く。崇高な愛をもつ人は、受けた贈り物に満足せず、あらゆる贈り物にまさって神である私に満足する。

　時として私に対し、また私の聖人たちに対して、あなたがより以上の愛をもちたいと思いつつ、その愛を感じないとしても、すべてを失ってしまったと思ってはならない。あなたが時に感じる甘美な愛は、あなたに与えられた神の恵みの結果であり、天の国の試食ともいうべきものである。それをあまり頼みにするな。それは、来たり去ったりするものである。むしろ心に起こる邪念と悪魔の策略とを軽蔑することこそ、徳のしるしであり、功徳となることである。

坊主憎けりゃ袈裟までも

九里（くのり）　彰

先日、スペインからカルメル会のＳ神父が来日し、シスターたちに一週間の黙想指導を行なった。通訳を頼まれ、出かけて行ったところ、彼は、予想通り、シスターたちの前では修道服を着ているのだが、それ以外は脱いでいる。スペインで最初に会ったのは 17～８年前。一年間一緒に生活した時も、修道服を着ている彼の姿は、ほとんど見たことがなかった。

二人だけで食事をしている時、それとなく長年気になっていた修道服のことについて聞いてみた。彼によれば、こういうことであった。

確かに修道服は本来、修道者の清貧を証しするものだが、これはスペインでは教会権力の象徴になってしまった。特にフランコ政権時代、教会は政府側に立ち、政府の庇護を受け、皆、特権を享受していた。――また彼は触れなかったが、中世以来、高位聖職者の居宅はスペインではパラシオ（英語ではパレス「宮殿」）と呼ばれ、彼らが王侯貴族のような生活をしていたことは、周知の通りである。またスペイン内戦（1936～1939）も深い傷跡を残していることは、私自身、膚で感じた。――そこで、スペインではアンティ・クレリカリズム（反聖職者至上主義・反教権主義）がとても強くなり、権力を象徴する修道服は着られなくなったというのである。そこに教会離れも重なっているそうである。つまり、スペインの多くの人々は、神は信じていても、教会はご免だという意識だそうである。

これは、日本で言えば、「坊主憎けりゃ袈裟までも」ということになる。この諺は、江戸時代、キリシタンを取り締まるため、幕府が寺請制度を採用し、それによって、全国津々浦々の寺が幕府権力の出先機関と化し、民衆統治に利用されたことによるのだそうである。つまり、権力をかさに着て、一般庶民を苦しめた僧が大勢いたということになる（聖書の世界で言えば、取税人のよう！）。そこで、そのような僧への憎悪が、人間としての僧にとどまらず、身にまとっている袈裟までにも及んだということである。人が嫌いになれば、姿形ばかりでなく、何もかも、仕草や声、彼が触れた物、一切合切が嫌いになるということであろう。

修道服を着ない修道者、その現実の背後に、それぞれ国の長いなが～い歴史が横たわっていることに、今回、あらためて気づかされた。

２０１７－７月

火のような預言者エリヤが登場した

彼の言葉は松明のように燃えた

シラ48･11

イエスラエルはこの炎によって神へと歩む道を

再び見出した。

神の炎は　わたしたちの心を造り変え

神を見ることを可能にしてくださる。

～ベネディクト１６世～＊

7 月 20 日は預言者エリヤの祝日となっています。でも残念なことに一般にはあまり祝われていませんし、知られていない預言者かもしれません。

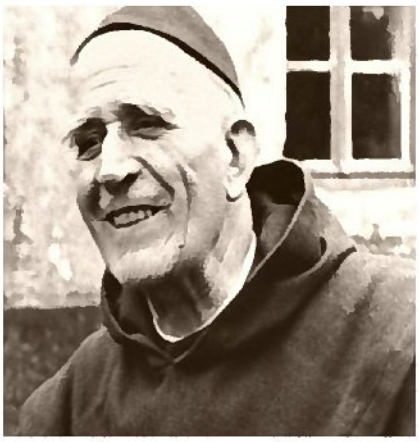
預言者エリヤは民を父である神へと立ち戻らせるために選ばれた人です。エリヤが活躍したのはバアルの神を人々が拝む罰として、雨が断たれていた時でした。エリヤのとりなしで人々は真の神に立ち返りました。「見よ、わたしは大いなる恐るべき主の日が来る前に預言者エリヤをあなたたちに遣わす」マラキ３・２３。

福音書にはイエスのご変容の場面で、「エリヤがモーセとともに現れ、イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期について話していた」（ルカ９・２８～３６）と記述されています。そのすばらしさにペトロはイエスに三つの仮の庵を建てましょうと提案しています。

神のみ前に常にとどまり、神の望みならば神のために戦ったエリヤはカルメル会においては常に「父」と仰がれて大切にされています。

昨年福者に挙げられたカルメル会士マリー＝ユジェーヌ神父（１８９４～１９６７）は、エリヤの精神を現代に生きていたと言われています（フランス『カルメル誌』特集号）。活動と観想の難しい統合を実現した人、単に頭の中のことでも、時間的なことでもなく「人に影響を与えずにはおかない確信をもって、祈りがわたしたちを変えてゆく力をもっていることを話していました。まさに神との忠実な関りによって、

彼自身変えられて、人々を燃え上がらせて神へ導く火、炎となっていたのです」「忠実なエリヤの息子マリー＝ユジェーヌ神父は、＜火のように預言者エリヤが登場しました。彼の言葉は松明のように燃えていた＞という言葉がそのまま当てはまる司祭でした。エリヤの真の弟子として、彼は真に火のように立ち上がりました。その火からいのち、光、力を得、そして絶え間なく神へ向かっていたのです。彼こそ生ける神の活ける証人でした。」（G・H ローマ特派員ラ・クロア紙『フランス・カトリック新聞』）



福者マリー＝ウジェーヌ神父

エルサレム聖アンナ教会
聖アンナと少女聖マリア

うとおしい梅雨が明け、蒸し暑い日々がまだつづくことでしょう。そんなむさぐるしい日々の生活の中で「神から離れてしまっている心」を神へと向けて歩む日々となりますように・・・７月１６日はカルメル山の聖母の祝日、２０日は預言者エリヤの祝日、２２日はマリア・マグダレナ、２６日はマリアさまの母聖アンナの祝日を祝います。

伊従　信子（いより　のぶこ）
ノートルダム・ド・ヴィ

＊　『イエスの祈り』　ペトロ文庫　カトリック中央協議会出版
＊　『神と親しく生きるいのりの道：マリー・エウジェンヌしとともに』聖母文庫
聖母の騎士社

十字架の聖ヨハネ　こぼれ話（115）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「天上的で神的な人」

イエスのテレジアは、十字架のヨハネを「天上的で神的な人」と呼びました。ヨハネが非常識な人、ふわふわとした超越的な人とならないように、テレジアの二つの形容詞をメモし、それらを『カルメル山登攀』（第3部26章3節）と結びつけましょう。そこでは、聖人自身が「神的で天上的な人」について語っています。彼によって定められた進行に従っていくことが良いことでしょう。それによって、対神的な広場や舞台において人間性は促進されていくことになるでしょうから。

十字架のヨハネはこう考えています。感覚的な事柄や善に関して不当に楽しまない人は、「感覚的なものから霊的なものが生まれ、動物的なものから理性的なものが生まれ、さらには人間が天使的な道を歩むようになり、現世的、人間的なものから神的、天上的なものが現れると、真実に言うことができる」。

現世的には、ここでは天上的が、人間的には、神的が対比されています。

しかしながら、神的なものは人間的なものを、天上的なものは現世的なものを捨て去るのでありません。喜びを高め、永遠なるものへと飛翔することが問題なのですが、田畑に戻り、神や自然に愛される秩序や規則の中でさまざまなことに奉仕しながら再び飛翔することを学ぶ必要があります。創造主はだれよりも自然を尊重するのですから、奇跡を行う者など大した者ではなく、奇跡を行う者はしばしば行うのであり、十字架のヨハネが断言するように、この上なく、奇跡話の敵なのです（3S31, 9）。

年間第 13 主日　(A)　　(マタイ 10：37―42)

わたしよりも人を愛する者は、わたしにふさわしくない。自分の十字架を担ってわたしに従わない者は、わたしにふさわしくない。自分の命を得ようとする者は、それを失う。わたしのために命を失う者は、それを得るのである。

弟子たちに言われたこの事を、イエスははっきり単純に説明されています。わたしたちを完全に愛しておられるイエスは、ご自分の命をいけにえとして捧げ、わたしたちを罪と死の束縛から解放してくださいました。このイエスの完全な奉献はわたしたちの心に響きます。イエスのように我を忘れ人を愛するとき、よい結果が得られることを経験しています。しかし真の信仰に依らない愛の行為が実らないことも知っています。イエスは仰せになります：わたしの愛があなたの心に満ち溢れるように！全身全霊を持ってわたしを愛しなさい。そうすればあなたの愛の行為の全てがよい実りを得るであろう。

イエスのように愛すること、イエスはわたしたちにしてほしいのです。イエスと同じ愛の十字架を担って愛することです。自己犠牲無しに愛そうとするとき、難しい状況が生じてきます。愛は往々にして無意識のうちに他人から来る利益やよい思いを目的とする小さな自己中心の思いから始まります。それが高じると、人との関係は全く利己的となり、自分の益となることだけを目的に行動するようになります。イエスは真の愛の道、自分を無にして人のために自分を与える愛の道へと導かれます。

人生最大の挫折は全く利己的に自分自身の欲求を満たし、自分自身の食を求め、自分自身の健康管理に執着し、自分だけの幸せを追い求めることです。切望すればするほどうつろな空しさが生じます。自分中心で幸せな思いの人は一人もいません。

この世の皮肉は、わたしの最高の幸せが、一番恐れているように思う自分自身を無にすることの中にあることです。わたしの心がより豊かにイエスで満たされるようになると、また、もっと人のために働きたいと思うようになると、わたしは本当に自分自身を見出し始めるのです。自分を忘れた自己犠牲の愛は、自尊心、自信、自己認識を与えます。自分を無にして自由に人を愛する人に不幸な人は一人もいません。

わたしの心を調べ、もっと、もっと“イエスの内に、イエスの愛に似たものとなるように！その愛がもっと、もっと自分を無にした自由なものとなるように！と願い祈る一週間となりますように！

(Sr. Paulina)

年間 14A（幼子の霊性）
「幼子」と「柔和」「謙遜」

ルカの平行個所を見るとイエスは喜びに満ち溢れてこれらのことを語っています。

福音のカギとも言える箇所です。キリストは幼子のような者を招くために来られました。そして御自分自身、御父に幼子のような信頼を抱き続けました。

神の国の秘義は「知恵ある者、賢いもの」には隠されています。ラビ、律法学者、クムラン派など、自分を賢者と考えているすべての者です。

幼子とは無知で無力な者です。「律法を知らないこれらの民は呪われている」とさげすまれた人々。地の民と呼ばれた貧しい人たち。例えば羊飼いたちはここに入ります。地の民が生まれてくる救い主を迎えました。

27 節の「全てのことは父から私に任せられています。父の他に子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには父を知る者はいません。」から主も御父の子であることが自己意識の第一にあるとわかります。それは幼子に通じます。しかしながら単なる無力な幼子でなく、御父から全権委任されています。

「疲れた者、重荷を負う者」は当時の宗教自体重荷だったことを示しています。主は「柔和で謙遜な者」です。

律法という軛を外して、福音に生きる（「私の軛」）、神の国に入る。「キリストは自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じものになられました」。（フィリピ２：７）という通りです。

だからキリストは、自分は教える者で教えられるのは嫌だという人間を招きません。三博士が王宮にやってきて、ヘロデ王が祭司長、律法学者に「メシアはどこで生まれることになっているのか」と尋ねると彼らは「ユダヤのベツレヘムです」と答えました。神の打つ次の手がわかるかのようです。しかし彼らは実際にキリストが現れてもメシアであるとはわからないのです。

幼子のような者は、律法の知識として神を知らなくても、愛を知っています。だから救い主誕生の時に招かれたのは、ユダヤの国の中では羊飼いだけでした。三博士は貧しくなく、教養豊かです。しかしユダヤ教のことは何も知りません（救われないということ）。それでもメシア誕生を星で知り、聖家族に貴重な贈り物をしました。幼子のような者だけが主に出会えます。　　（新井）

年間15主日　　(マタイ　13：1～23)

今回のたとえ話は神の豊かさのお話です。いつくしみ深く寛大な種まき人は、私たちが心の中にいつもみ言葉を受け取ることができるように、あちこちに豊かに種を蒔きます。神は私たちがそれに価していても、していなくても、私たちの心の土地が種の芽を出す準備のできたときに、そこに種があるように、神のみ国の種を私たちのまわりに常に撒き散らしています。神の愛の一番小さな種でさえ、私たちの中に想像できないほどの収穫をもたらします。

実りは土地のタイプによります：人生におけるよい霊的実りは、主のみ言葉をどれほど喜んで受け取り、応答するかによります。種まきのこのたとえ話で、イエスは四つの異なったタイプの土地を使って、神の救いのみ言葉に対する四つの別々の反応を表しています。実際には、私たちは人生の様々なときに、四つの異なったタイプの土地の全てを示します。

良心を調べてみましょう。自分自身に問いかける必要がある質問です。神のみ言葉を理解しないで聞いているだけではないでしょうか？　神のみ言葉にしっかり出会っているでしょうか？金銭や、安全や、定年や高齢になったときの備えを心配しすぎていないでしょうか？　神のみ言葉は私の中に根づいているでしょうか？　回心しているでしょうか？　犠牲することができるでしょうか？　私たちが生み出すように招かれている「実り」、すなわち愛、思いやり、正義と慈しみ、移住者に対する親切心はどうでしょうか？　胎児やシングルマザーに対してはどうでしょうか？　これらのことを考えないでいると、神のみ言葉が私たちの生活にもたらす癒しを頂き損なうでしょう。

私たちはどの土地でしょうか？　私たちは神のみ言葉や、人生の中での様々な神のわざにどのように応えているでしょうか？　この世での試練や圧迫によって、やさしい種が私たちの中で育つのを妨げていないでしょうか？　私たちが信者であるということでまわりの人たちからいやな思いをさせられるとき、引き下がってしまっていないでしょうか？　もの事が思うように進まないとき、神は私たちを気にかけていないと思うでしょうか、それとも神は無力で弱く、心に留めるべきでないと思うでしょうか？　日々の生活の出来事や私たちが出会う様々な人たちを通して神が送ってくださっているメッセージを、この世の思い煩いや、野心、成功や幸福への願望によって、妨げているのではないでしょうか？　神のみ言葉にどのように応答するかが、どれほど福音が生活の中で実るかに対する鍵です。自然の状況と違って、私たちの土地の種類は変えることができます。神は私たちの人生の困難な小道や、岩だらけの場所や、茂みの中に、そのような場所で私たちが成長し、実を結ぶのを望んで、種を蒔かれます。

(Sr. Paulina)

年間第１６主日

（マタイ１３：２４－４３）

年間第１５主日から始まったマタイ福音書１３章は、「天の国」について教える７つのたとえ話が語られますが、今日は先週の「種を蒔く人」のたとえに続いてのたとえ話が語られてゆきます。

最初は「毒麦のたとえ」です。良い種が蒔かれた畑に毒麦の種が蒔かれて、芽が出て、麦が実ってみると毒麦も現れ、困っている様が話されます。芽が出て実をつけるまで、良い麦と毒麦の区別をつけるのが難しいのですね。しかし毒麦はすぐに抜いてしまおうとすると、良い麦まで抜いてしまうといけないから、刈り入れの時までそのままにし、まず毒麦を集め、焼くために束にされて最終的に処分さてしまうのですね。

次に「からし種」と「パン種」のたとえが語られます。種には色々な種がありますが、からし種の種は、どんな種よりも小さいのに、鳥が来て巣を作るほどの大きな木になると言うことが語られ、同様に粉にパン種を混ぜると、全体がやがて膨れると語られます

そして最後に「毒麦」のたとえの説明です。畑は世界、良い麦は御国の子ら。毒麦は悪い者の子らのことを表していることが明かされます。麦畑の良い麦の中に紛れ込んだ毒麦の存在を忍耐しておられる神。しかしながらいつの日か、刈り入れの日が訪れた時、世の終わりの時には必ず毒麦が集められ、焼かれてしまう訳です。つまずきとなるものすべてと不法を行う者どもが集められて、燃え盛る炉の中に投げ込まれてしまいます。

耳のある者は聞きなさいとイエスは言われます。神の御心とは、全ての人が救われることですね。罪に陥っている者はそこから離れ、悔い改めて、神に立ち返って生きる様願っておられます。そのために今は毒麦の存在を、悪いものの存在を、神は忍耐されておられるのです。

私たちが神の声に耳を傾けるなら、たとえ罪の闇に沈んでいたとしても、正しい道に立ち返って、神の子としてふさわしく歩んでゆくことができるでしょう。今の私たち、今の私は良い麦なのでしょうか、それとも毒麦になっていないでしょうか。神の御前で自分を見つめ考える必要はあるのでしょうね。自分自身を正しい人は父の国、神の国で太陽のように輝くとイエスは言われます。いつの日か、私たちが神の国に召された時、神の御前で輝くものとなります様に。

（Fr.　古川利雅）

みことばのひびき

年 間 17 主 日　　（マタイ　13：44～52）

本日の朗読箇所は、イエスを私たちの神であり救い主と受け止め、神のみ旨を行うために人生において全てを犠牲にすることと、最も価値のある宝、即ち高価な真珠を発見し、所有することとは同じであるということを教えています。言い換えれば、キリストと個人的な交わりを保ち人生の見方を共有することは、この世で最も美しく、最も貴重なことなのです。

私たちは一瞬、一瞬を貴重な到達点の見えるところで生きるべきです。たいてい私たちはお金や地位や楽しみのような間違った宝を追っています。たびたび過去への後悔に閉じ込められ、未来のことに焦点を当てすぎます。結果として、豊かな現在は過ぎ去り、宝は二度と見つかりません。このように、ここ地上でそしてのちに天国で、イエスを通して神の生命を分かち合うという実に貴重な真珠は二度と見つかりません。天国は、神のみ旨を行おうとし、人生の普通の召し出しに従い、神の掟の枠内でこの世の喜びを楽しむ私たち全ての人の手の届くところにあることを思い出しましょう。貴重な真珠を探しに行き、貴重な真珠を探している他の人の手伝いをするため、今すぐ与えられている時間を使うときです。どの道をとったらよいか知るために、どこで主がお呼びになっているか探し、見分ける挑戦を受けています。

一番大切な宝を安全に守るために、万全の注意を払う必要があります。イエスを毎日自分たちの神であり救い主であると受けとめ、み旨を行うことで私たちの生活全体をイエスに管理して頂き、日々聖霊の力づけと導きを求め、祈りの中でイエスに話しかけ、観想的に聖書を読むことでイエスを聴き、私たちの罪の赦しをイエスと他者に求め、ミサの間祭壇に自分の生活を捧げ、聖体拝領でイエスを頂いて私たちの霊魂を養い、このようなことでイエスとの個人的な交わりという宝を保つことができます。

このたとえ話の教訓は、麦といっしょに大きくなる雑草のたとえに似ています。つまり、神の王国は聖人と悪人が交じり合っているのです。「雑草」から自分を切り離して、もっと「信仰深く」なりたいと感じている人にも常に誘惑があります。しかし、イエスは報酬か罰かの最後の審判は神のみ手にあることを思い出させてくださいます。福音や神の王国の要求に達していないように見える人々を理解し、忍耐し、配慮することを知らなければなりません。善と悪が混在していない人はほとんどいないという事実を謙虚に認めましょう。聖パウロのように「私が今あるのは神の恵みによる」ことを認めましょう。

(Sr. Paulina)

「貧しき人びと」　　石原淳子

新聞紙上の身の上相談のコラム、日頃目を向けたりすることはないのですが、なぜかこの日はたまたま目にとまり、心が動き読む次第となりました。

２２歳の大学生からの相談で、「道を歩いていたら、年をとったおばあさんがたくさんの段ボールをカートにのせて、手にも持ち抱え、歩きにくそうにしていたので手伝いをした。　家は近かったけれどカートはまっすぐには進まず、なかなか難儀した。　家に着くと、ちょっと待っててねと何度も念押しするので、お礼をくださるのだろうとわかったが、つい待ってしまった。　お礼をもらうつもりなどなかったので断ろうと思った。　案の定おばあさんは４００円をわたしにもたそうとし、断ったけれど最終的に２００円を頂いてしまった。おばあさんの家は古くて壊れてしまいそうで、お金の余裕はないのではと察した。　おばあさんの気持ちも分かったけれど、頂くべきではなかったと後悔している。　こういう場合どうお断りすればよいのか」という内容でした。

回答者は経済学者で、一瞬経済？と奇異な感じもあったのですが、経済学も根本は人と人との関係を科学するのだというようなことを聞いたこともあり、要はお金のことだから？などと雑に思ったりもして読みました。

相談を読んでドストエフスキーの「貧しき人びと」を思い浮かべたとあり、小説の中のエピソードをひきながら、老いても貧しくても自分の力で誇りをもって生きる姿勢という点から、おばあさんからの２００円を受け取ったことはよい選択だったと述べています。　「人を助けたいというあなたの優しさと、自立して一人で生きているというおばあさんの矜持と、両方にうまい具合に折り合いをつける結果になったからです。　生きていると相容れない気持ちに折り合いをつけねばならない必要にたびたび遭遇するが、互いの人間性を尊重し合いたい」という趣旨でした。

私はこの大学生の相談にも、この経済学者の回答にもどちらにも心惹かれたのでした。　その上、ドストエフスキーの「貧しき人びと」を遠い忘却の彼方から引っ張り出し、本箱からも引っ張り出し、再び手に取って頁を開いてみるという、思いもよらないおまけまでつきました。

「自分が自分の主人であり、自分で自分を養っている」、人としての尊厳をあらためて心深く思い考える機会を持ちました。

そして「貧しき人びと」、「小さな人びと」ということを考えました。
けなげに懸命に生きる名もない市井の人・・・・善良でたくましく真っすぐで・・・・愚かで清らかで美しく・・・・思い悩み・・・・振り上げる手の力もなく・・・・夜を過ごし朝を迎える人・・・・

目に見えて花咲くことはないけれど、どこにでも見かけるたくさんの人たちといえるのかもしれません。　殊更ではないので、見かけても気が付くことなく素通りしてしまうのかもしれません。　だからでしょうか、小説に登場するときには際立って光を放ち、私たちを魅了するのです。
共感を誘い、心を温め、人としてのあるべき姿を示して力づけ、私たちの心を洗い、存在を清めるのです。

「小さな人びとの一人ひとりを見守ろう　一人一人の中にキリストはいる」と私たちは歌います。　祈ります。心を寄せ見守ります。　手を差し伸べます。
そして小さな人びと、貧しき人びととは、実に私のことでもあるのです。
私は「貧しき人びと」の「外」にいて、それらを認識するのではありません。
「小さな人びと」を見守る「側」にいるのではありません。　今この時、あちらとこちらを分けてしまう「境」などはないのです。
神さまが超越され内在され遍在されるなら、キリストがいつもいつまでも私と共におられるのなら、「外」や「側」や「境」はないと思っています。
人はこの日常のただなかで、置かれた状況のただなかで、きっと兄弟として人と出会うのだと思います。

相談を寄せた大学生、回答を寄せた経済学者に、私の魂は親しく出会ったのだと言えるのかもしれません。　父である神さまの内にあって、兄弟として出会う恵みの出来事だったのでしょう。
神さまの子どもは、みな誰でもが「貧しき人びと」「小さな人びと」なのだと今、思い確かめるのです。

――――　主イエズス　きてください

『奥村一郎師』の想い出

藤沢教会信徒　兼子盾夫

今から 50 余年前になりますが、私は南平台にあるドミニコ教会の教会学校で小学 5-6 年生のクラスを教えていました。
一ヵ月後に白柳司教様（当時）をお迎えして堅信式が行なわれる時です。
初聖体のための勉強をしている児童に向かい、私が「皆さんがもうじき頂くパン（ホスチア）はイエス様の体です」と言ったところ、児童の一人が「それじゃ、人食い人種だ！」と言ったのです。私は正直言ってすぐには対応できませんでした。というのもホスチアがイエス様のおん体というのは「ホスチア= イエス様の体」みたいな数学の公式のようになっていて、その深い意味を考えたことがなかったからです。しかし 2000 年（大聖年）に師のお供をしてファチマ、サラマンカ、セゴビア、トレド、アビラ、そしてアッシジを経てローマに巡礼した折り、途中のアビラで 33 年前に疑問に思った「ご聖体」について奥村師に質問する機会を得ました。

「神父様、ミサで頂くご聖体は象徴ですか」「いいえ、象徴ではありません」師は言下に否定されました。「でもイエス様の本当の体なら、食人になってしまいませんか」師は「難しいが、大事な問題ですね。しかしそれは神秘なのです」と仰っしゃいました。ある意味では、私の十才の児童のような質問を師は正面から受けとめて下さいました。解決するよりも、とにかく受けとめて下さる方を私は欲していたのでしょう。その時以来、私は師のお供をして毎年、巡礼に参加したり黙想会でご指導を仰ぐようになりました（偶々、この質問と同じ問を小野寺功先生が表現は違いますが、デュモリン師になさったことを後から『奥村一郎選集』第 3 巻で（pp. 225-226）読みました。

巡礼の 2 年後、上野毛に奥村師をお訪ねしたときに、私はまた質問しました。「あの時、神父様は象徴ではありませんと明言されましたが、もし象徴でないとすれば、イエス様のまことの体ということになり、そうなるとイエス様が初めてそう仰ったときの周囲のユダヤ人の反応（ヨハネ 6.56）と同じものを私も感じます。しかし単なる象徴というと、実物ではなく代わりに表すものという意味ですから、これもまた違う。そこで私はこう考えたのです。ミサに与り聖変化させられたパン（イエス様の体）を頂くと、それまでは出来なかったささやかな愛の行為を行う勇気が与えられる。それは今までの自分にはなかった働きであって、イエス様が自分のなかで働いておられる証ではないか。パンは象徴ではなく、イエス様の体であるという意味はそういうことではないでしょうか」。

すると奥村師はニコッとされました。私はそれで問題がすべて解決したとは思いませんが、大事なことは秘蹟というものも自分の体験にひきつけて考えないと

形式的な理解に堕してしまうことです。神学者ならトマスの解釈を引用し司祭の手によってパンの本質は実体変化する、つまりパンという外見（偶然性）はパンのままだが、実体（本質）という眼にみえないものは変化しているのだと。しかしそういったところで、私にはあまりピンときません。むしろある種の詭弁のように聞こえます。また仮にご聖体のうちにおられるイエス様の体は「復活」した体であって、人間として生きておられた時のイエス様の肉の体ではないのだと、パウロ(1コリ 15-44)的に説明しても、わかったようなわからないような感じです。むしろ復活されたイエス様が私たちのなかに生きておられ、それまでは出来なかった愛の行為を行うように変えられたと考える方がずっと判り易いのではないでしょうか。あの時の師のニコッは、そういう意味だったのではないかと私は思います。

2000 年以降、巡礼のお供をするようになったと書きましたが、特に忘れられないのは 2001 年 10 月の巡礼です。9.11 テロの直後だけに私自身も家族の強い反対にあいました。巡礼そのものが中止になるかも知れない。いっそ、その方がいいのだ。誰もが迷いました。どんどん出発の日は迫ります。しかし不思議な事に 3 、4 日前になると迷いは一切なくなりました。明鏡止水の境地です。成田に集合しルルド（私は近代合理主義の哲学の徒ですから、それ迄ルルドには縁がなかったのです）アッシジ、ローマへの巡礼に旅立ちました。

病欠の一名を除いて最初の申し込み時から一人も欠けなかったのです。この師と一緒なら、仮に死んでも本望であると誰もが思ったに違いありません。帰国後に上野毛迄お送りした時、神父様とのお付き合いが長い信者の方から伺いました。一時は神父様も血の汗を流して判断に苦しまれた。大勢の信徒の生命に関わることなので責任感から中止の選択もあった。「中止はしかし旅行社の方の生活がかかっていますからねえ」と仰ったそうです。

出発の直前迄、文字通り血の汗を流しどうすべきか神様に祈られ、ご自分の体調まで崩してしまわれ、しかも巡礼の途上ではそれをおくびにも出されなかった師の態度。

食卓においては壮年を凌ぐ健啖家でよくお食べになりました。ミサの司式においては謹厳実直そのものながら、人々に混じっては談論風発たえず微笑を絶やさぬ師は自己に厳しく他者に優しい修道者であり、日本の土着性と東西の最高の知性を併せもつ方でした。思えば仏、伊への巡礼の間中、侍者もどきを勤めさせて頂き、つねに師の傍に侍るという至福の十日余を過ごしたことは幸運でした。奥村神父様が帰天されてから 2 年がたちます。しかし破顔一笑される師の、あの何とも言えぬ人懐こいお顔は、私の記憶の中で今も生き生きとしています。お若いときには厳しさが顔にでることもあったとも伺いましたが、私が存じあげているお顔には真面目な優しさだけがありました。　　合掌

奥村一郎選集

追悼　奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均240頁・各巻とも本体2000円+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻 **慈悲と隣人愛**　解説・西村惠信
日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。
カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における霊的修行

第2巻 **多文化に生きる宗教**　解説・橋本裕明
宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。
大いなる賭け——宗教対話／日本人とキリスト教——遠藤文学の魂

第3巻 **日本の神学を求めて**　解説・小野寺 功
日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。
日本の神学——根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい掟

第4巻 **日本語とキリスト教**　解説・阿部仲麻呂
関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。
日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳

第5巻 **現代人と宗教**　解説・鶴岡賀雄
宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っていけるのか。
現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／「新しい人」としての真人

第6巻 **永遠のいのち**　解説・八木誠一
生と死、罪と恵み、正義と愛——人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。
嬰児復帰／人間の栄光と悲惨／神は死せり／十字架の秘義／人間と世界と神

第7巻 **カルメルの霊性**　解説・高園泰子
愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。
アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻 **神に向かう〈祈り〉**　解説・高橋重幸
東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。
考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈りとは何か？

第9巻 **奉献の道**　解説・宮本久雄
すべての人にみずからを与えつくす奉献生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。
清らかな矛盾／世を変えるパン種として／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンス宗教研究所　〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5
ＴＥＬ：03-3322-7601　ＦＡＸ：03-3325-5322
ホームページ：http://www.oriens.or.jp/

カルメル誌　新刊案内

2017年　夏号　No.365

《今年の特集　三位一体のエリザベトの霊性》

三位一体のエリザベトにおける「人間の召命」(2)
九里彰

三位一体のエリザベトに影響を与えた霊性家(2)
—十字架のヨハネ
松田浩一

三位一体のエリザベトが遺したもの(2)
須沢かおり

風に吹かれて(12)—成長記録—
原　造

フランス便り(2)ひな菊バカレットの咲くころ
—あなたも呼ばれています、"聖なる"ものになるように
伊従信子

遠藤周作の文学とテレーズの霊性(1)
—遠藤周作とテレーズ
片山はるひ

道元の霊性に学ぶ(2)—小さなものの霊性
田畑邦治

神がいつくしまれた道(14)
奥村一郎

特集号「三位一体の聖エリザベトの祈り」
—現代人へのメッセージ—

エリザベトと共に生きる—永遠の光のもとで
片山はるひ

続・歴史の中の三位一体のエリザベト
大瀬高司

三位一体のエリザベトにおける苦しみの神秘
九里彰

三位一体のエリザベトによる
「聖書に基づくキリスト中心の生活」
ポーリン・フェルナンデス

父と子と聖霊の唯一の神を信じる
—三位一体のエリザベトと共に
松田浩一

購読のご案内

1 冊 460 円　A5 サイズ　50～70 ページ

販売所：サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他

●送付ご希望の方は、600 円【460 円（+送料 140 円）】を下記へお振込み下さい

●まとめてご購入希望の方は、年会費（年 5 冊：春夏秋冬+特集号 計　3,000 円）を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457　跣足カルメル修道会

お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356

いのちの言葉　7月

疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。
休ませてあげよう

（マタイ 11・28）

「疲れた者、重荷を負う者」という言葉からひとつのイメージが浮かびます。それは、いつの日かすべての重荷から解放される日を待ち望みながら、人生の道のりを歩んでいる多くの老若男女（ろうにゃくなんにょ）の姿です。

イエスの周りには彼の姿を見てその話を聴きたいと願う大勢の群衆がいました。その多くは素朴で貧しい、教育も無い、当時の宗教上の複雑な規律など何も知らない人々でした。

こうした人々の肩の上に、ローマ帝国から課せられた支払うことができないほどの税が重くのしかかり、人々は不安におびえながら、何とかして生活を楽にできないかと模索していました。

イエスは、「わたしのもとに来なさい」という招きを通して、当時社会から除（の）けものにされ、罪人（つみびと）として扱われていた人々に特別な注意を向けました。

イエスは、すべての人が最も大切な律法を理解し、それを受け入れるように望まれました。その律法とは、御父の家の扉をひらく「愛の掟」のことでした。
現代に生きる私たちにも、イエスは「私のもとに来なさい」とおっしゃいます。

イエスは、私たちのすべてを、あるがまま愛してくださいます。能力や限界、心の中の望み、私たちが犯した失敗でさえも！そして、「私の言葉に信頼しなさい。それは、人を押し潰すようなものではなく、むしろ、人の心を喜びで満たす『軽いくびき』なのだから」と約束されます。

疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。

イエスは、さらに「休ませてあげよう」とおっしゃいます。でも、どのように、でしょうか？

一つは、もし私たちが人生の中で、イエスを唯一、揺るがぬ土台として据えるならば、イエスの存在そのものが、私たちに深い平安を与えてくれるということ

でしょう。
そして私たちの日々の歩みを特別な光で照らし、たとえ、難しい状況におかれたとしても、人生には意味があると私たちに悟らせて下さるでしょう。

キアラ・ルービックは次のように記しています。
「愛は、単なる感情ではなく、兄弟への具体的な行いとなって現れるものです。特に身近な兄弟に対して、私たちも、ほんの小さなことから始めてみましょう。
シャルル・ド・フーコーは言っています。『人が誰かを愛するとき、その人は相手の中にいます。愛によって相手の中に入り、愛によって相手の中で生きるようになります。もはや自分に生きるのではなく、自分を“離れ”、自分の“外で”生きるようになります』[1]と。
このように愛するとき、『わたしを愛する人にわたし自身を現わす』[2]、と約束されたイエスの光が心の中に差し込むのを体験するでしょう。
愛は“光の源”です。愛することで、私たちも、愛そのものでおられる神さまをより深く知ることができるでしょう」[3]とキアラは結んでいます。

イエスの招きを受け入れ、私たちも彼のもとに行きましょう。イエスは私たちの希望であり平和です。

イエスの「愛の掟」を受け入れ、家庭、教会、職場、日々さまざまな機会にそれを生きるようにしましょう。侮辱されても許しでこたえたり、困難にある人に手を差し伸べたりしてみましょう。

きっと、イエスの掟は、重荷どころか、空高く私たちが飛ぶために必要な「つばさ」となってくれるでしょう。

レティツィア・マグリ

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

いのちの言葉の集い
関東　7月9日（日）13：30～ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室
（週日に、調布、鶴沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも）
中部　7月9日（日）14：00～　瀬戸市みずの坂　サポートハウスゆうや
長崎　7月23日（日）11：00 ～　カトリック浦上教会 要理教室

連絡先：フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812
E-mail:tokyofocfem@gmail.com
ホームページ： conil157ch1.wix.com/focolare-jp

[1] シャルル・ド・フーコー
『Scritti Spirituali』VII, Città Nuova, ローマ 1975, p.110
[2] ヨハネ 14・21 参照
[3] キアラ・ルービック 1999年5月「いのちの言葉」解説より

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
・CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO・

<< **Communications**（時事通信）>>

2017年5月14日

カルメル在世会召命の識別

ファティマのドムス・カルメリで、ポルトガルのカルメル在世会は、第２４回全国会議を開催し、マデイラ諸島を含む全ポルトガルの共同体から８０～９０名が集まりました。カルメル在世会とカルメルの兄弟姉妹会のカルメル修道会総長代理のアルシナル・デバスティアーニ神父も出席されました。

ポルトガル管区には、１６のカルメル在世会共同体があり、約６００名の会員がいますが、その大多数（４００名）がマデイラ諸島に住んでいます。

全国会議の主な結果としては、次の諸点が挙げられます。

・信徒は、兄弟愛やこれからの会議において、大きな役割を担っている。
・兄弟愛は、第二ヴァチカン公会議で提示された信徒の神学において深められ、それ以後、発展し続けてきた。
・さまざまな共同体の姿勢に大きな転換が見られる。
・マデイラの諸共同体は、現在の在世会会憲の条文に従って更新され、刷新されるべきである。

この目的を達成するために、アルポイム・アルベス神父が、この地域の管区顧問ヨアキン・ ティヘイラ神父の任務を助けるため、特別代理に任命されました。

会議に加えて、ファティマの男子と女子カルメル会修道院で、修道者と修道女達に会う時間がありました。参加者は全員、ハンガリーの「ヴィア・サクラ」に沿って、聖母マリアの言葉とカルメルの聖人たちの著作に助けられながら、巡礼を行いました。この三日間にリスボンのパコ・ダルコ共同体の３名が有期約束をし、またファティマ共同体からこの式典に参加した信徒４名が志願者になりました。

閉会ミサは、女子カルメル修道院聖堂で行われ、跣足カルメル修道会の三つの枝（修道士、修道女、在世会）の美しい一致と交わりの体験になりました。その聖堂はファティマの聖母ご出現１００周年記念の日、今年５月１３日に教皇フランシスコから列聖されたファティマの幼い牧童、フランシスコとハシンタに捧げられています。

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

《 **Communications**（時事通信）》

2017/6/3

New Cardinal in the Teresian Carmel

On the 21st of May last, during the message which accompanies the recital of the *Regina Coeli* in St Peter's square, Pope Francis announced the celebration of a Consistory on the 28th of June for the appointment of five new Cardinals, among whom was Mons. Lars Anders Arbolelius, ocd, who since 1998 has been the Bishop of Stockholm.

Monsignor Arborelius was born in Sorengo, Switzerland, on the 24th September 1949, into the heart of a non-practicing Lutheran family. When his parents were divorced, he went with his mother to Lund, in Sweden, where he acquired the nationality of that country.

When he was converted to Catholicism at the age of 20, the writings of St Therese of the Child Jesus moved him to enter our Order, in the Flanders Province. He did his studies in Bruges, (Belgium) and in the Teresianum in Rome. He was appointed Bishop in 1998 by St John Paul II, and was ordained Bishop that same year.

From the coming 29th June, the day on which he will become Cardinal, he will be changed into a counsellor close to Pope Francis, called to uphold the Pope's service as Bishop of Rome and universal Pastor of the Church, as well as being called himself to serve the ecclesial communion and be a joyful herald of the Gospel, as Pope Francis reminded us in his message.

糸巻き棒からペンへ(22)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス　OCD

テレジアは、これらのことについて、特にトレドの修道院創立に際して、大いに熟考しました。トレドには、彼女の友達だと言われていた高位の貴族の家族が大勢いました。彼らのだれ一人として彼女を支援せず、創立を妨げようとさえしました。というのは、テレジアがユダヤ教からの改宗者である一商人の援助を受け入れたからです。『良心の報告』の一つに、そのようなことを見ることができます。「トレドの修道院にいた時、何人かの人々は私に、騎士ではなかった人に院内に埋葬地を与えないよう忠告してきました。主は私にこうおおせられました。“娘よ、この世の掟を見るなら、大いに戸惑うことだろう。貧しく、この世から見下されている私に目を注ぎなさい。はたしてこの世の偉大なものは、私の前で偉大なものであろうか。あなたたちは、家系で評価されるべきなのか、徳で評価されるべきなのか”(CC5)」。イエスご自身がテレジアの行動の仕方を是認しています。すなわち、この世の「偉大さ」や、福音から遠く離れたその時代の社会的しきたりを基準としてはならないということです。

テレジアの中に、私たちは、虚偽と社会慣習のただ中で、現実的で真正で確固たる唯一のものを絶えず探し求めている姿を見出すことができます。彼女は、環境やその時代を超越し、新しい地平を探すように努めました。それゆえ、彼女のメッセージは、いつも現実的です。というのも彼女は、具体的なその時代の言葉や形式を使用しながらも、その同じ言葉とや同じ形式を超越していたからです。これらの前提を知らないことは、聖テレジアの独自性や彼女の書き物の本当の意味を理解できなくさえすることでしょう。

3．著作家としてのテレジア

イエスのテレジアの特異性を理解するには、この女性が著作家であるということの意味を意識するいくつかの時期を取り上げねばならないでしょう。私たちが記憶できるほんのわずかな数に気づくためには、19 世紀以前の女性著作家の一覧表を作ろうとするだけで十分でしょう。無数のテレジア自筆の原稿が保存されています（その時代の男性著作家を見ても、これは類例のないことです)。

カルメル会の企画案内

カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）

上野毛霊性センター(東京)　2017年７月～2018年３月

黙想企画　＊＊上野毛聖テレジア修道院（黙想）＊＊

１．祭日のミサに参加するために

【クリスマス】　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時

２０１７年１２月２４日(日)～２５日(月)朝食《講話なし、夕食なし》

２．日帰り一日黙想会　　１３時３０分～１６時　　福田正範神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

２０１７年

７/７(金)　７/２０(木)　９/２１(木)　１０/２７(金)

１１/１０(金)　１１/３０(木)　１２/７(木)　１２/２２(金)

２０１８年

１/１１(木)　１/２６(金)　２/８(木)　２/２３(金)　３/８(木)　３/２３（金）

＊各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

＊申し込みは、３か月前より受付致します。

３．奉献生活者のための黙想会

２０１７年

８月　１日（火）１７時～　８月１０日（木）朝　　福田正範神父

８月１６日（水）１７時～　８月２５日（金）朝　　福田正範神父

１２月２７日（水）１７時～２０１８年１月５日（金）朝　　福田正範神父

４．奉献生活者ならびに一般信徒のための黙想会

２０１７年

１０月１０日（火）１７時～１０月１９日（木）朝　　福田正範神父

５．青年黙想会(男女)　35歳位まで

２０１８年

２月１０日（土）１６時～１２日（月）１６時　　カルメル会士

６．召命黙想会(男女)　40歳位まで

２０１７年

１１月３日（金）１６時～５日（日）１６時　　カルメル会士

７．四旬節黙想会（テーマ：ゆるしの喜び）

２０１７年

３月　１８日（土）１８時夕食～２０日（月）１６時　　福田正範神父

８．特別黙想会　　Ｓｒ．伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）

２０１７年

１２月８日（金）２０時～１０日（日）１６時

＊　日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、カルメル会霊性センターニュース、ホームページ（http://www.carmel-monastery.jp）なども合わせてご覧下さい。

＊　こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。

＊　間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel:03-5706-7355　　Fax:03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ：http://www.carmel-monastery.jp

《2017年 名古屋一日静修 》

三位一体の聖エリザベトの祈り

— 現代人へのメッセージ —

7月17日（月）午前10時～午後4時

講　師　松田浩一神父
「父と子と聖霊の唯一の神を信じて生きる
—三位一体のエリザベトと共に—」
場　所　カトリック日比野教会　信徒会館
（地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約５分）
参加費　１０００円
持ち物　聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当
申込み　下記いずれかの方法でお申込み下さい。
FAX ／ 0568‐62‐5167
E-mail ／seisyuu_2015@yahoo.co.jp
ハガキ ／〒484-0076 犬山市橋爪一丁田１－26
「名古屋一日静修」係り

２０１７年度日程と講師「テーマ」

✣ 9月23日（土）片山はるひ氏
「エリザベトと共に生きる
—永遠の光の　もとで—」
✣ 11月25日（土）Sr.ポーリン・フェルナンデス
「三位一体のエリザベトによる
『聖書に基づくキリスト中心の生活』」

≪特別黙想会≫
日時：2017年12月9日（土）～10日（日）
16時半受付～翌日16時
「三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘」
指導司祭：九里彰神父
申込み：宇治聖テレジア修道院（黙想）
Tel：0774-32-7016　Fax 0774-32-7457

プログラム

9：45　受付け
10：00　導入の祈り（聖堂）
10：20　第一講話（信徒会館）
11：30　念 祷 ＊
12：00　昼 食（信徒会館）
12：30　念 祷 ＊
13：00　第二講話
14：00　念 祷
14：30　ミ サ（聖堂）
15：30　茶話会（信徒会館）
16：00　終了の祈り
＊希望者は赦しの秘跡または
面接を受ける事ができます

跣足カルメル修道会主催、カルメル在世会協賛

金沢黙想案内

毎月第一日曜日　三馬教会　聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会　聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ　レジナ　終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬 3 丁目 324 番地

カルメル会　三馬修道院

三上　和久神父まで

Tel　076-244-7788

宇治カルメル会　２０１７年　黙想会案内

【一般のための黙想】

・１泊２日	7月22日(土)～23日(日)	ロザリオの道：キリスト者の歩み	中川博道神父
(午後5時～午後4時)	10月7日(土)～ 8日(日)	テレーズと共に生きる	中川博道神父

【聖書深読黙想会】

(午前10時～午後4時)	7月 1日 (土)		中川博道神父
	9月23日 (土)		中川博道神父
	11月25日 (土)		中川博道神父

【水曜の黙想】

(午前10時～午後4時)	7月 5日(水)	三位一体の聖エリザベトの祈り	九里彰神父
	9月 6日(水)	嵐の中で試される信仰	Sr.ロサ
	10月18日(水)	ロザリオを生きる	中川博道神父
	11月29日(水)	「ラウダート・シ」を生きる	中川博道神父
	12月13日(水)	三位一体の聖エリザベトと三位一体の神	九里彰神父

【一般のためのカルメルの霊性セミナー】

(午後５時～午後４時)	10月14日(土)～16日(月)	イエスと出会う聖テレジア『自叙伝』	中川博道神父

【聖テレーズの黙想】

(午後５時～午後４時)	9月30日(土)～10月1日(日)		中川博道神父

【特別黙想会―三位一体の聖エリザベトの祈り―】

・１泊２日	12月 9日(土)～10日(日)	三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘	九里彰神父
(午後4時半～午後4時)			

【社会人（働いている人）のための霊的同伴】 九里彰神父

・１泊２Ｅ　(金)夕食なし	7月 7日(金)～ 8日(土)
(午後8時～午後３時)	9月 1日(金)～ 2日(土)
	11月24日(金)～25日(土)

【青年の集いin Uji】

(午前10時～午後４時半)	11月 3日(金)	中川博道神父

【待降節の黙想】

(午後５時～午後４時)	12月2日(土)～3日(日)	受肉の神秘	九里彰神父

【奉献生活者の黙想】

	8月 7日(月)～16日(水)	中川博道神父
(午後５時～午前９時)	8月18日(金)～27日(土)	九里彰神父
	11月 7日(火)～16日(木)	中川博道神父
	12月27日(水)～1月5日(金)	九里彰神父

【English Retreat】

(10am to 4pm)	11月18日(土)	A pilgrimage to Jerusalem with Magi	Sr.Rosa

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】　チェックイン午後４時以降可、チェックアウト午前１１：３０

12月24日(日)～12月25日(月)　　{講話なし、各食事つき}

―その他皆さまが企画なさったグループ黙想会，個人黙想も歓迎いたします。―

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前９時～午後５時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12

宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）

Tel　0774-32-7016　Fax　0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

宇治聖テレジア修道院（黙想）の「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。**その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。**よろしくお願いいたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：７２０５８０５
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：５６８４５３９１
名義：男子跣足カルメル修道会

男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062　愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel：052-571-1558　Fax:　052-681-6445

聖書深読センターのご案内

１　東　京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。
２　宇　治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち１箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

１　朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くＢ５用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：６ヶ月２０,３６０円（４、７、10、１月に納入）　継続の場合は１９,１３０円

講師：九里彰師（奇数月）　今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル
私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座課
電話 03-3344-2527（直通）

◎　聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局　Ｓｒローザにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
所長：九里彰神父　　事務局長：今泉健神父　　連絡先：Ｓｒローザ
ＴＥＬ　0774-32-7016　　ＦＡＸ　0774-38-2543
Ｅメール　carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内

心のいほり　内観黙想センター
真命山　霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
慈しみ深き会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、 開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。 電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572－0001 大阪府寝屋川市成田東町3－27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
http://www.com-unity.co.jp/naikan (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2017年予定

T1 03/12（日）-03/18（土）兵庫西宮・トラピスチヌ
K2 03/27（日）-04/01（土）東京小金井・聖霊会
N1 05/07（日）-05/13（土）滋賀唐崎・ノートルダム
K2 06/11（日）-06/17（土）東京小金井・聖霊会
T2 07/02（日）-07/08（土）兵庫西宮・トラピスチヌ
T3 09/03（日）-09/09（土）兵庫西宮・トラピスチヌ
N2 10/10（火）-10/16（月）滋賀唐崎・ノートルダム
K3 11/05（日）-11/11（土）東京小金井・聖霊会
T4 12/03（日）-12/09（土）兵庫西宮・トラピスチヌ

2018年予定

K1 05/06（日）-05/12（土）滋賀唐崎・ノートルダム
K2 10/07（日）-10/13（土）滋賀唐崎・ノートルダム

真命山

祈りの集い

年間のテーマ

山上の教え

2017

年度行事のご案内

祈りの集い(10 時～15:00 時)

1 月12 日　幸せの道･イエスの山上の垂訓　(マタイ5･7)

2 月 9 日　心の貧しい人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。　(マタイ5･3)

3 月 9 日　柔和な人々は、幸せである、その人たちは地を受け継ぐ。　(マタイ5･4)

4 月 20 日　悲しむ人々は、幸せである、その人たちは慰められる。　(マタイ5･5)

5 月 11 日　義に飢え渇く人々は、幸せである、その人たちは満たされる。　(マタイ5･6)

6 月 8 日憐れみ深い人々は、幸せである、その人たちは憐れみを受ける。(マタイ5･7)

7 月 13 日心の清い人々は、幸せである、その人たちは神を見る。(マタイ5･8)

8 月 休み

9 月14 日平和を実現する人々は、幸せである。その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイ5･9)

10 月 12 日義のために迫害される人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。(マタイ5･10)

11 月 9 日幸いなのは、神の言葉を聞き、それを守る人たちである。(ルカ11･27・28)

12 月 14 日見ないのに信ずる者は、幸いである。(ヨハネ20･29)

指導者　ロッコ　神父

※　個人またはグループでの黙想会

研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山　諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻蛉浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

講話と祈りの集い

＊四ツ谷＊　Week End Emao
上智大学 ２号館１階　カトリックセンター

７月 22 日(土)
テーマ：第２章「聖三位の交わりのうちに」

午後２時～午後５時 30 分
担当 片山はるひ
講話・祈り・質問・分かち合い
参加費無料

毎回、テキスト『神と親しく生きるいのりの道
幼きイエスのマリー・エウジェヌ師とともに』
（聖母文庫　本体 500 円＋税）を用いて、
講話をすすめています

※７月は上石神井での集いはございません。
　また、８月は上石神井、四ツ谷の集い共にお休みです。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

お申し込み・問い合わせ
ノートルダム ・ ド ・ ヴィ
『片山はるひ宛』でお願いします。
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。　http://sadhana.jesuits.or.jp/

★申込み受付・・開始日の８日前で締切ります

コース	日　時	指導者	開催場所	申込み
サダナⅠ	7/14(金)　17:30-17(月)16:00	Fr植栗	女子御受難会修道院（宝塚市）	上田正美 TEL090-5651-6495
フォローアップ	9/10(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F（四ツ谷）	来間(くるま)裕美子※ TEL090-5325-2518 045-577-0740
サダナⅡ	9/14(木)　17:30-18(日)16:00	Frマルコ・アントニオ Fr植栗	ラ・サール会仙台修道院（仙台市宮城野区）	松本由美子 TEL070-6950-4199
入門Ａ	10/1(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F（四ツ谷）	来間(くるま)裕美子※
宝塚リピーターの会	10/6(金)　17:30-9(月)16:00	Fr植栗	女子御受難会修道院（宝塚市）	上田正美
サダナⅠ	10/26(木) 17:30-29(月)16:00	Fr植栗	西日本霊性センター（広島市安佐南区）	西日本霊性センター受付デスク TEL082-239-0034
サダナⅠ＆アドバンス	11/2(木)　17:30-5(日)16:00	Fr植栗	浜松三ケ日研修センター（浜松市）	来間(くるま)裕美子※
入門Ｂ	11/19(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F（四ツ谷）	同上
サダナⅡ	11/22(水)17:30-26(日)16:00	Fr植栗	カルメル修道会上野毛修道院(黙想の家)（世田谷区上野毛）	同上

※不在の場合は、渡辺由子　　Tel＆Fax ： 042-325-7554

◆サダナⅠ（入門Ａ．Ｂ．Ｃ）

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナⅡ

Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナⅠを終えた方。

◆入門Ｃ・・入門Ａまたは入門Ｂを終えた方。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所 在 地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3－1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-ﾒｰﾙ： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交 通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日 程：

A. 8日間の個人指導による黙想
初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

① 2017年 5月 6日（土）～ 5月14日（日）
② 8月14日（月）～ 8月22日（火）
③ 10月 9日（月）～ 10月 17日（火）
④ 12月27日（水）～ 2018年1月 4日（木）

B. 祈りの体験：週末3日間 （金曜日の夕食～日曜日の昼食）
【神との親しさの中で日常を生きるために】

① 2017年 2月 3日（金）～ 2月5日（日）
② 2月24 日（金）～ 2月26日（日）
③ 3月 17日（金）～ 3月19日（日）
④ 6月16日（金） ～ 6月18日（日）
⑤ 7月14日（金）～ 7月16日（日）
⑥ 9月15日（金）～ 9月17日（日）
⑦ 11月17日（金）～11月 19日（日）

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2017年 5月30日（火）～ 6月7日（水） 阿部 仲麻呂 師 （ｻﾚｼﾞｵ会）

◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、 ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1）氏名(ﾌﾘｶﾞﾅ) 2）住所 3）電話番号 4）希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Fax で「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やｸﾞﾙｰﾌﾟ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。 （但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

希望への道

2017年度　女子青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	4月22日(土)～23日(日)	なぜそのようなことがあり得ましょうか。	山内十束師(ご受難会)
2	6月10日(土)～11日(日)	おことばのとおり、この身になりますように。	山内十束師(ご受難会)
3	11月11日(土)～12日(日)	神は卑しいはしためを顧みられた。	山内十束師(ご受難会)
4	2月17日(土)～18日(日)	心に納めて、思い巡らす。	山内十束師(ご受難会)

場所：　ノートルダム教育修道女会　唐崎修道院
〒520-0106　滋賀県大津市唐崎　1-3-1
対象：　独身女性青年信徒
費用：　2,500円（一日参加も可）
申込み・問合せ：　*ノートルダム教育修道女会　唐崎修道院　シスター桂川*

Tel ：　077-579-2884　Fax ：　077-579-3804
email: karainorind92@mbe.nifty.com

希望への道

―神は卑しいはしためを顧みられた―

2017年度　第３回　女子青年黙想会

日時：　11月11日（土）15：00 ～
12日（日）15：30 まで
場所：　ノートルダム唐崎修道院　（JR京都駅から30分）
指導：　山内　十束 師　（ご受難会）
対象：　独身青年女性信徒
費用：　2,500円
締切：　2017年11月5日（日）まで

〈申込み・問合せ〉
〒520-0106　滋賀県大津市唐崎　1-3-1
ノートルダム教育修道女会　Sr. 桂川
Tel ：　077-579-2884　Fax ：　077-579-3804
email: karainorind92@mbe.nifty.com

リーゼンフーバー神父講座・集いの案内　２０１７年～２０１８年

●キリスト教入門講座
金曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座
毎月第1・第3・第5火曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー　下記（予定）の土曜日：
9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2017年度：理性と神認識－古代と中世において
夏学期：7/1、7/8、9/2、9/9、9/16

●神学読書会
第2・第4木曜日：18時-20時
上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と神学に関する文章を読んで、話し合います。4月27日から。但し祝日、8月全体は休み。

・ミサ：上記読書会後20時－20時45分　クルトゥルハイム1F右聖テレジア小聖堂どなたでも。

●黙想
・「会社帰りの黙想」 毎月第2・第4火曜日 18時45分－20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
4月25日から。但し祝日、8月全体は休み。
・「通う霊草」 8月26日(土)-9月3日(日)18時-20時45分　上智大学内クルトゥルハイム聖堂

・「黙想会」
11月11日(土)－12日(日)(上石神井)、2018年3月17日(土)－18日(日)（上石神井)、1泊2日。申込の締切りは、初日の10日前。
[関西] 9月30日(土)13時30分－10月1日(日)15時(宝塚黙想の家)。Tel.0797-84-7863 (Sr.田中).

●祈りの集い
・下記の土曜日 13時30分－16時 上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。講話、黙想、ミサがあります。
2017年
7月22日、9月16日、10月14日、11月25日
2018年
1月20日、2月17日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分－16時50分

●坐禅会
・第1、第3月曜日：18時00分－20時00分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。2回坐り、間に講話。(5月15日から。但し祝日、8月全体、12月25日は休み)

●坐禅接心
8月12日(土)　20時20分—16日(水)　8時30分
11月1日(水)　20時20分—5日（日）　8時30分
秋川神冥窟。1泊 2,400円(+暖房費)程度。
事前申込み要。
[関西]
7月30日(日)17時45分—8月5日(土)15時。
宝塚黙想の家。事前の申込み要。
Tel.0797-84-7863. (Sr.田中)

●アガペ会
下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時－18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
10月21日(土)
2018年1月27日(土)

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座　2017年
日時　毎週金曜日
18時45分～20時30分

7/07　イエスの生き方―神に遣わされて人に仕える
7/14　イエスのたとえ話―神の働きを語る
7/21　イエスの人間関係― 罪人と弟子と共に
7/28　イエスは誰か― イエスの自己理解
7/29　◆感謝のミサ(15時、上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
8/04,11,18,25　○休み
8/26-9/03　●通う霊操(18時-20時45分)
(上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂)
9/01　イエスの死―その救済的意義
(上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂)
9/08　聖書のイエス像― ヨハネとパウロの見たイエス
9/15　イエスの復活― 今に生きるイエス
9/22　聖霊― 神の愛に導かれる
9/29　祈りの本質とさまざまな祈り方―神と関わる
10/06　洗礼と堅信― イエスに結ばれて生きる
10/13　教会の成立と意味― イエスを中心に集う
10/20　人間としてのイエス― 新しい人間像の基礎づけ
10/27　御子としてのイエス― 神との関係
11/10　父と子と聖霊― 神の生命に与る
11/11-12　●黙想会(上石神井)
11/17　信仰の決断― 支えられて生きる
11/24　ミサ祭儀― 神への奉仕と生活の糧
12/01　自己実現と神の意志― 生き方の規範
12/08　人間の弱さ― 罪とは何か
12/15　恵みとゆるし― 神の憐れみを受ける
12/22　愛の心― キリスト教の本質
12/23　◆クリスマスのミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
12/25　●クリスマスの黙想(18時50分-20時10分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂、予定)

キリスト教理解講座　2017年
日時　第1・3・5火曜日
18時45分～20時30分

[倫理的行為]
7/4　自己実現ー責任と自由
7/18　性格の形成ー自己受容と善への憧れ
7/29　◆感謝のミサ(15時、上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
8/1,15　○休み
8/26-9/03　●通う霊操(18時-20時45分)
(上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂)
9/5　人間の弱さ―罪とゆるし
9/19　有意義に生きる基盤－信仰と希望

[根本的態度]
10/03　唯一の掟―愛による完成
10/17　基本的な徳――判断力・勇気・節制
11/07　共同存在――共通善・正義・奉仕
11/11-12　●黙想会(上石神井)
11/21　個人の道――自己の課題と聖霊の導き
12/05　対人関係と友愛――恵みである他者
12/19　身体と生命――性と倫理

12/23　■クリスマスのミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2F、80人限定)
12/25　●クリスマスの黙想(18時55分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂、予定)

《場所・お問い合わせ》
聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール　TEL　03・3263・4584
クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102－8571　千代田区紀尾井町7－1
上智大学SJハウス
電話　03－3238－5124(直通)　－5111(伝言)
Fax　03－3238－5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
－観想の祈りへの道－

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室　１４：００～１６：００
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

【2016年予定】

~~12月15日(木)『霊の賛歌』第５回目：第３の歌~~ 終了

【2017年予定】

~~１月19日(木)『霊の賛歌』第６回目：第４～５の歌~~ 終了
~~３月16日(木)『霊の賛歌』第７回目：第６の歌~~ 終了
~~５月25日(木)『霊の賛歌』第８回目：第７の歌~~ 終了
７月20日(木)『霊の賛歌』第９回目：第８の歌
９月21日(木)『霊の賛歌』第10回目：第９の歌
11月16日(木)『霊の賛歌』第11回目：第10の歌
12月21日(木)『霊の賛歌』第12回目：第11の歌

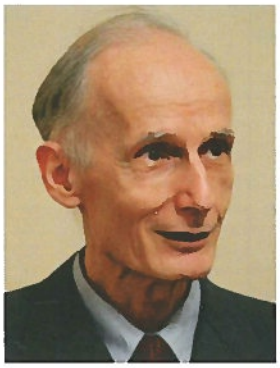
＊参加費無料（献金歓迎）
＊問い合わせ先：042－473－6287　篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）

<<特別黙想会>>

日時：2017年12月16日(土) 4時半受付～17日(日) 午後4時
場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）
テーマ：「三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘」
指導司祭：九里彰神父
申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）
〒158-0093　東京都世田谷区上野毛2-14-25
Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789
E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

（全五巻）四六版・４３４頁～６２８頁

各巻　本体 3、８００～5、０００ 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は４０余年の著述活動による１５０余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価（本体＋税）
第1巻	**Ⅰ　超越体験　—宗教論** 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全 11 作、434p	9784862852151 3,800 円＋税
第2巻	**Ⅱ　真理と神秘　—聖書の黙想** 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全 35 作、544p	978-4862852175 4,600 円＋税
第3巻	**Ⅲ　信仰と幸い　—キリスト教の本質** 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全 38 作、628p	9784862852205 5,000 円＋税
第4巻	**Ⅳ　思惟の歴史　—哲学・神学的小論** 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全 41 作、448p	9784862852212 4,000 円＋税
第5巻	**Ⅴ　自己の解明　—根源への問いと坐禅による実践** 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全 35 作、470p	9784862852229 4,200 円＋税

●リーゼンフーバー，クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938 年ドイツ生まれ。1958 年イエズス会入会。1967 年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969 年上智大学文学部哲学科専任講師。1971 年東京で司祭叙階。1974 年上智大学中世思想研究所所長（-2004）。1981 年上智大学教授。1989 年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009 年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知　泉　書　館　〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

霊性センターニュース

＊年間購読（郵送）のご案内＊

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から 12 月までとなります。
例：6 月申込の場合は、7 月号～12 月号（但し 8 月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250 円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等をご記入の上、
郵送か下記の e-mail でお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会修道院　「霊性センター事務局」

《e-mail でのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。
＊何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。
Tel:0774-32-7456　Fax: 0774-32-7457

男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp
Google：「カルメル会」で検索できます

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願致します！

「霊性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「霊性センターニュース」は、現在、宇治霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座：　００１１０－４－２９７２５０
加入者名：　カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

先月、北海道の女子カルメル会にしばらく滞在した。新鮮な空気を吸い、小鳥をさえずりを聴き、緑の畑や山々を眺めながら散歩していると、自然を意識しない都会の生活は、何か狂ってくるのではないかと思われた。

人間が作り出した人間にとって偉大なもの、高層ビルや高速道路や車や電車や飛行機等々に囲まれている内に、この世の主は、人間ではなく、神であることを、全被造物を造られた神の偉大な業を、人はいつしか忘れ去っていくのではないだろうか。地震や津波、火山の噴火や台風の襲来など、自然の猛威の前には、人間の技術と知恵、お金と時間を沢山かけて作られたものも、あっという間に無に帰していく現実を私たちは幾度となく見ているはずなのだが……

あなたの天を、あなたの指の業を私は仰ぎます。月も星も、あなたが配置なさったもの。そのあなたがみ心に留めてくださるとは、人間とは何ものなのでしょう。（詩 8･4-5）

（P.九里）

＊＊＊＊＊＊　８月休刊のお知らせ　＊＊＊＊＊＊

「霊性センターニュース」は、８月（号）休刊となります。
９月号は、８月下旬発送予定です。ご了承下さい。

製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本/発送を、今月より宇治修道院で行うことになりました。作業はホチキス綴じと購入者の方々への発送です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

９月号の製本/発送日　　８月 28 日(月)　午前９時半頃から
宇治修道院信徒会館

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しください。

霊性センター事務局　☎0774・32・7456